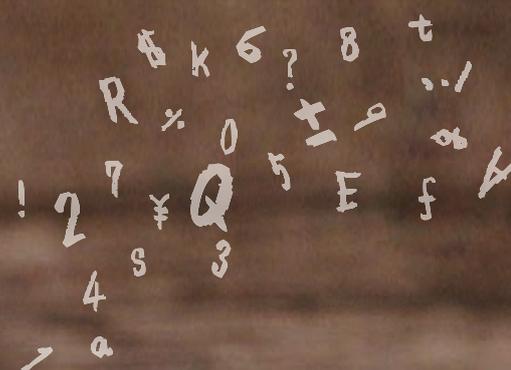




p2-4

松戸発！全国に広がる  
“オンライン寺子屋”  
の取り組み



p5\_\_サポセンの事業報告

p6\_\_[チャレンジャー]  
宿りのまち

p7\_\_[スタッフコラム]  
クラウドファンディングに  
挑戦すると得られるもの

p7\_\_サポセン新規届出団体

p8\_\_[ある日のサポセン]  
オンライン化で活動を継続するコツ！





特集

# コロナ時代の市民活動 松戸発！全国に広がる “オンライン寺子屋” の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、私たちの生活にも様々な変化が生まれました。その中でも特に子どもたちや保護者にとっては、4月～5月の休校期間は大きな出来事だったのではないのでしょうか？

インタビューさせていただいた中村さんは学校の先生という肩書きを持ちつつ、休校の渦中で市民活動としてオンラインによる学習支援を始められました。今回は立ち上げた背景などを伺いました。

### 基本情報

団体名 オンライン寺子屋（NPO法人格取得予定）  
 代表者名 中村 柁（なかむらまさき）  
 連絡先 onlineterakoya@gmail.com  
 ホームページURL（右記QRコード）  
<https://sites.google.com/view/onlineterakoya>



### 現在の活動内容：

「すべての子どもに、多様な選択肢を」という理念を元に、オンラインで無料の個別学習サポートを行っている。新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校下において活動をスタートし、わずか1週間で先生30人、生徒100名以上が参加した。現在も理念に賛同した多くの現役の先生が教えている。



オンライン個別学習サポート  
By 学校の先生(ボランティア)

**Q1** 中村さんの自己紹介も兼ねて、教育に対して考えていることを教えてください。

現在は松戸市内の中学校で英語を教えています。

大学生の時には世界中の国を訪問して、アメリカ・アフリカ・インドなどの学校を2か月間、ボランティアで手伝っていました。その経験の中で決まった形の教育というよりは、色々な形の教育があるということを感じました。その後、日本で先生になってから、現場では優れている面と遅れている面を感じるようになっていきました。特にITやテクノロジーの面では遅れていると感じることが多くて、自分が働いている学校にも提案をしたりしていました。

**Q2** コロナ禍による休校の際には、どんなことを考えていましたか？

この期間が日本の教育のターニングポイントになると思いました。

これをきっかけに様々なことが変わっていくんじゃないかと。休校で授業ができなくなった時、これまでの教育を見直してどのような方向にいくべきかを考えていました。もちろん授業ができない中で先生たちの不安もありましたが、自分としてはこの環境で何ができるかを考え始めた感じです。その中で、全国のいろんな学校でのコロナ禍への対応をまとめたり、文科省が発信した指針を分かりやすく整理したりと、ブログを通じて発信していました。

**Q3** 「オンライン寺子屋」はどのように始まったのでしょうか。

4月から個人的にオンラインで勉強を教えたりする活動をしていました。

5月に入ってから3人の仲間と「やろう！」と決意して、数人でも良いからボランティアで先生を募って活動を広げられないか？とスタートしました。その後は思っていたよりも反応が大きく、先生も参加者もあつという間に人数が増えていきました。でも多くの先生たちはオンラインで相互のやりとりをしながら教えた経験がなかったので、戸惑いもあったと思います。「失敗することもある」ということを伝えながら、僕たちもやりながら色々学んできました。トライ&エラーをしながら進めていたのが、最初の頃は3日に一回程度、授業実践共有会という形でお互いに事例を共有していました。



「オンライン寺子屋」の発起人で公立中学教員の中村さん

## VISION

すべての子どもに、多様な選択肢を

### オンライン寺子屋とは

<b>特徴1</b> 完全無料で1対1学習サポート	<b>特徴2</b> 授業に必要なのはスマホのみ	<b>特徴3</b> 教えてくれるのは現役の先生たち
------------------------------	-----------------------------	-------------------------------

### オンライン寺子屋受講の流れ

- 1 下記のフォームから必要事項を記入し申し込み
- 2 返信メールのURLを開く
- 3 レッスン予約から、受講したい科目、学年にあった先生を選び、申し込む
- 4 当日は、スマホを用意してレッスン開始



パネルディスカッション

YouTubeで  
ご覧いただけます!



こちらから  
視聴

今回は「幸せのメカニズム〜人生100年時代をハッピーに過ごす秘訣〜」と題し、基調講演に、前野マドカ氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属SDM研究所）をお呼びし、また地域活動実践者として森田貴彦氏（認定NPO法人外国人の子どものための勉強会他）、渡邊友紀子氏（松戸ビル&タッグルーム）にもお越しいただきました。地域活動や市民活動がいかに自分自身の幸福（well-being）につながるのか、いわゆる「やらされ感」のある関わりでなく自ら選択して活動するキッカケや、ゆるやかに継続して活動するためのコツを、研究者と実践者の視点それぞれから伺う機会となりました。

**第4期まつど地域活躍塾 公開講演会  
幸せのメカニズム  
〜人生100年時代をハッピーに過ごす秘訣〜**

今年で4年目を迎える、まつど地域活躍塾。開講に先立ち公開講演会を5月26日に開催しました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン生配信での開催となりました。

生配信イベントでしたが、その配信動画は現在YouTubeにて視聴可能です！今からでもぜひご覧ください。

1. 基調講演

「幸せのメカニズム〜人生100年時代をハッピーに過ごす秘訣〜」  
前野マドカ氏

2. パネルディスカッション

「松戸で自分もまわりも幸せに暮らすヒントを探る」  
前野マドカ氏・森田貴彦氏・渡邊友紀子氏  
進行：阿部剛（まつど市民活動サポートセンター センター長）

松戸市主催での  
オンライン  
イベントは  
市内初!

まつど市民活動 IT 化応援キャンペーン!

with コロナから浮かび上がってきた市民活動支援の一つとして7月毎週火曜日に実施し、計14団体の相談を承りました。大好評につき8月以降も継続中です！期間中、寄せられた相談から、皆さんにぜひ共有したい内容をお伝えします。

Zoomって有料化すべき？

ここが違うよ 有料と無料！

1 つなぎ続けられる時間が違う

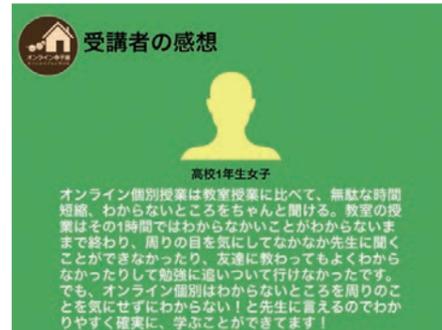
無料版は3人以上40分まで、という制限があります。有料版ではこの制限がなくなり、40分を超えてもオンライン会議を続けることができるようになります。一方、無料版であっても40分が過ぎた直後に別のオンライン会議を開始できるので、無料版であっても40分以内に次のZoomを始めれば、継続のイメージで使い続けることができます。

2 チームでイベント運営しやすくなる

無料版は参加者とホスト（管理者）の2つしか権限の差がありませんが、有料版にすると「共同ホスト」という3つ目の権限が使えるようになります。例えば、共同ホストは待機室にいる参加者を招き入れたり、他の参加者をミュートにしたりできます。大人数が参加するイベントをするときには共同ホスト機能がある方が運営しやすくなります。

他にも細かい設定に違いがありますが、大きくはこの2つの要素が無料版と有料版の違いです。もし「私の団体がこんな風にしたいんだけど、有料版にしたほうがいいかな?」と思ったら火曜日のIT相談をお気軽にご利用ください。

※IT相談は事前予約が必要です。 ※Zoomのサービス内容は更新されることがありますので、必ず公式サイトの情報をご確認ください。



受講者や保護者の方々から寄せられた感想の一部は、オンライン寺子屋HPにも掲載されています

**Q4** 実際に始めてみて嬉しかったり大変に感じたのはどんなことですか?

あたたかいコメントが嬉しいです。難しかったのは情報共有。

毎回授業の後に保護者からのアンケートを取っているんですが、皆さんとてもあたたかいコメントを寄せてくれるのが嬉しいです。参加者からは「オンラインだといつも聞けないことが聞ける」とか、保護者からも「子どもの性格にあった勉強ができて良かった」など。特に元々学校に行けていなかった子が参加してくれて、最初は上手くしゃべれなかったけど、だんだん関係性ができて話してくれるようになったこともありました。

難しかったことは、先生も参加者も人数が増えてくるにつれて、情報共有が難しくなったことでしょうか。新しい先生にどのように教えるかを伝えることや、増えていく参加者の対応など運営メンバー3人では大変だった時期もありました。でも途中からマニュアル作りが得意なメンバーが整理してくれて何とか回るようになっていきました。



オンライン寺子屋で国語の授業を受ける  
中学3年の女子生徒（右）

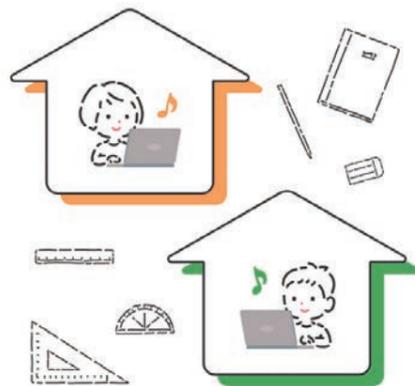
**Q5** 6月からは多くの学校が再開しましたが、それ以降どのように活動をされていますか? また学校現場に戻って感じていることはありますか?

学校に行けていない子どもたちや休校時のセーフティネットになれば。活動の当初は5月末で終わるという案もありました。でも、元々学校に行けていない子どもたちのことに気づいたり、参加者からも「続けてほしい」という声が寄せられたこともあって続けることにしました。それに、もしまだ休校になってしまった時のセーフティネットにもなればと考えています。

**Q6** 今後団体としてNPO法人格も申請されるということ、これから実現したいこと、発展させていきたいことはどのようなことでしょうか?

あまり形を決めすぎずに、社会のニーズを見ながら進めていくスタイルで。ビジョンとしては「教育の選択肢を広げることを実現したいです。一般の学校教育の中でもオンラインの選択もできるように。また現在は無償で先生と生徒をマッチングしていますが、今後は「お金を払ってでも受けたい」と思ってもらえるように価値を高めることで持続的な活動にするか、もしくはオンライン寺子屋の活動がなくなっても問題のない社会になるかを指したいと考えています。

学校が再開している間は細く長く、先生たちができる範囲で続けていければと思っています。夏休みは夏期講習という形で生徒を集めています。これからあまり形を決めすぎずに、社会のニーズを見ながら進めていくというスタイルで続けていきたいと思っています。



# チャレンジャー 市民活動団体紹介

Challenger



まつど・人も動物も宿るやさしいまちづくり  
人と生き物が共に一つの町に宿る  
人にも動物にも命にやさしい地域作り活動  
～宿りのまち facebook より

お問合せ 代表 山崎仁美  
E-mail : contact@yadorinomachi.com  
TEL : 050-5373-7118  
facebook : facebook.com/yadorinomachi/



代表の山崎さんと家猫ソニア



松戸市発行 活動中である  
ことがわかる缶バッジ  
※詳細は、環境保全課まで



立派な美男子に変身して、  
里親さんのもとへ



飼い主さんが入院してしまい  
毛玉・汚れで最悪な状態にあったユウ君。  
保護してそのまま病院へ。  
今は里親さんに可愛がられています。

自分のやりたいたいことを形作るため  
「まつど地域活躍塾」などに参加。

「高齢者のペット問題」解決を目指し  
事業に必要な資格を次々と取得。

走りながら形を作り  
少しずつ軌道に乗せていきたい。

きっかけは家猫の譲渡で、行った先が多頭飼育のお宅。そこで猫の避妊去勢手術専門病院を抱えているNPOと繋がり、相談・協力を受け、お手伝いをしたのが始まりだった。近所や地域がやれることや松戸の活動について知りたくて、サポセンを訪ねたのが2018年の秋。それからセミナーや団体、自治体に足を運んで情報を収集。その後、松戸の様々な活動、地域で何が必要とされているのかを学び、自分のやりたいことを形作るために、まつど地域活躍塾などのサポセン主催講座にいくつか参加する。

様々な学びを経て確信したのが高齢者のペット問題。高齢者の暮らしでペットが生きがいになるなどアニマルセラピーとしての効果も十分期待されている一方で、多頭飼育や飼い主のいない猫への餌やりによる糞害と増殖、独居の方の入院によるペットの置き去り、といった事例は後を絶たず、高齢者がペットを飼うことは余り推奨されていないのが現実。その矛盾を解決する糸口になるのではないかと考えたのだ。並行して、活動を継続可能なものとするために、事業に必要な資格を次々と取得し、準備を重ねた。



二級愛玩動物飼養管理士



第一種動物取扱業



ペットシッター士



動物愛護ボランティア

## Staff Column

スタッフ  
コラム

### クラウドファンディングに 挑戦すると得られるもの

「クラウドファンディング」を聞いたことがありますか？

これはインターネットを使って寄付を募る仕組みのことです。

最近ではニュースや新聞などでも紹介される例が増えてきました。

松戸市で活動している団体でも、子どもたちの居場所を作るための資金を調達するためにクラウドファンディングをした事例があります。

今回は実際に私がクラウドファンディングに挑戦した中で感じた一番大きく得られたものは何だったのかをご紹介します。



まつど市民活動サポートセンター  
コーディネーター  
齋藤 和輝

クラウドファンディングは  
自分たちの活動を深く伝える機会。

クラウドファンディングで得られる一番大きなものは、やはり「自分たちの活動を深く伝える機会」です。

普段活動をしていても、基本的にはその活動の対象の人にしか届きません。例えば、子育て家庭を支援する活動に関心を持つのは、子育て中の家族やその周辺の人が中心です。そこに届く情報も「毎週〇曜日に子育て広場があるんだ」という表面的なものが多いです。

しかしクラウドファンディングでは「私たちはこんな活動をしてきた、これからこんな未来を作りたいたい、そのためにこういう支援をしてください」という具合に「過去・現在・未来の話」をします。そのため普段よりも深く自分たちの活動を伝えることができます。

一方、自分たちの活動を深く伝えるためには、しっかり振り返ることが大切です。なぜなら「過去・現在・未来」を伝えるためには、これまでやってきたことや、これからやりたいことを整理する必要があるからです。

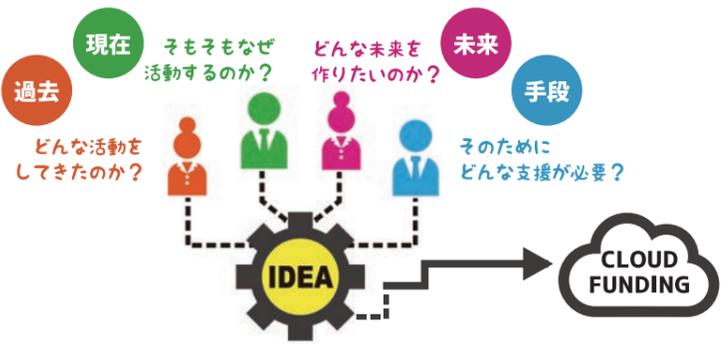
自分たちについて深く考えた後は  
それ以前と全く違った景色に。

実はこの「周囲の人に深く活動を伝えること」と「自分たちが深く活動を振り返る機会」は表裏一体の経験です。この表と裏の経験がクラウドファンディングに挑戦すると得られる一番大きなものだと思います。

もしかすると、考えてみた結果クラウドファンディングには挑戦しない、という結論になるかもしれません。それでも、自分たちについて深く考えた後は、それ以前とは全然違った景色になります。

日々の活動の中で「そもそもなぜ活動するのか？」や「これからどうなりたいのか？」という話をみんなでする機会はなかなかありません。「クラウドファンディングをやってみよう」という声かけはこうした大切な話をみんなでするきっかけになります。

今の活動で行き詰まっているなど、大きく変化をしたいと思っている団体の方は「クラウドファンディングに挑戦してみる」ことをきっかけに仲間と過去・現在・未来についての話をしてみてください。



2020年6月1日～8月31日届出順・敬称略

- ★松戸市パークゴルフ協会 ★関西吟詩 松戸支部 ★どっこいしょでありがとう会
- ★からだすっきり体操 ★柿ノ木バドミントン ★千葉県退職公務員連盟松戸支部
- ★うめ家 ライブラリー ★東葛GH講座 企画運営チーム ★JKC千葉北クラブ連合会
- ★一般社団法人路上博物館 ★松戸釣りクラブ ★松戸市和太鼓連盟
- ★NPO法人かぜのこようちえん ★おいしいごはんとおやつとガーデンhanaラボ
- ★こども「元氣」クリエイターズ! ★TIEウインドアンサンブル
- ★NPO法人Matsudo子どもの未来へwith us

サポセン  
新規  
届出団体  
を紹介します!



オンライン化で活動を継続するコツ！

突然押し寄せてきた団体活動のオンライン化の波！  
今回は番外編として、オンラインツールを導入し、工夫しながら活動している「NPO法人MamaCan」の山田さんに実践例を取材しました！

**〔良いところ〕**  
招待URL送ればすぐに参加できる！  
(※事前にアプリのインストールが必要)  
大丈夫だよ！  
今から話せる？  
遠距離の人とも接点ができる！  
話したい時に話せるスピード感！  
話したいことあるけど遠いなあ…

**〔難しいところ〕**  
他の団体さんと偶然出会う機会が減り、雑談がきっかけで生まれる「取組」組みがなくなった。  
O講座  
発言のタイミングが掴めない…  
同時に複数人が話している！  
雑談がしにくい！

**〔工夫していること〕**  
事前に内容等を伝えておく！  
お疲れ様です。明日の会議なのですが、  
1.○○○○○  
2.○○○  
3.○○○○○  
の流れて話し合う予定です！  
他に聞きたいことや議題あれば連絡ください！  
13:16  
議事録を共有しその場で皆も打ち込めるように！  
会話+文章化でより参加しやすい会議に！  
さっき話した部分詳しくは書き込んでおこう！

NPO法人MamaCan  
山田美和さん

使い分けを意識！  
これは直接会って！  
オンライン  
リアル(対面)

Zoomだけでなく、LINEやGoogle Meet、Messengerなど、使いやすいものを使おう！

「私は団体の代表ではあるけれど、全てを担う必要はないと思っています。」と山田さん。  
毎回の会議のファシリテーターや議事録の担当等は他のメンバーに分担しています。日頃から「役割分担をすることで意欲的に参加しやすくなり、自分の得意分野・個性を伸ばす一助になるのでは」と考えているそうで、団体内のオンライン化を進める際には「私パソコン得意だから、調べてみんなに伝えるね！」と自発的に動いてくれたメンバーもいたとのこと！

**POINT!** 団体内のオンライン化を進める際には、ツールの工夫はもちろん  
事前の団体内でのコミュニケーションの工夫も重要なポイントのようです！

サポセン  
ニュースレター  
第21号(2020年白露号)  
発行日：2020年9月(※年4回発行)  
発行元：まつど市民活動サポートセンター(指定管理者 NPO法人まつどNPO協議会)

「ぼっく」の主な設置場所  
松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種公共施設の他、松戸駅自由通路に設置しています。

「ぼっく」設置協力店  
Sampo Café(ハケ崎7丁目)  
子育てつながるセンター co-no-mi(本町13-27)  
松戸観光案内所(本町7-3)  
やしま商店(本町6-3)  
松戸探検ひみつ堂(松戸1874)

**「ぼっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します！**

ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけませんか？  
ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。  
もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。  
広告掲載も募集中です。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

**編集後記**  
With コロナでもちょっといい話。ある日の夕方、虹がサポセン前の空に現れました。ほぼ180度の大きな虹。通常の夏より静かなサポセン。あっという間に消えてしまった虹ですが、スタッフ一同テンション上がりました!(ひ)

**まつど市民活動サポートセンター**

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)  
TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636  
E-mail: hai\_saposen@matsudo-sc.com  
URL: http://www.matsudo-sc.com/  
facebook: https://www.facebook.com/matsudo.sc

◎開館時間：月曜～土曜…9時～21時  
日曜…9時～17時  
◎休館日：第1・第3水曜、年末年始(12/29～1/3)